

あるべき姿について

(社)日本 ITF テコンドー協会 理事長 岸玄二

おはようございます。

とても大きな大会の開催に当たり、とても大きな尽力があったものと理解しております。池場実行委員長とスタッフの皆様に心から感謝申し上げます。

本日も心の在り方についてのお話をさせていただきます。

協会主催のイベントでもあり、今年最後の試合でもありますので根幹の部分のお話が出来ればと思います。

『強い』とはどういうことでしょうか？私が見つけた答えは“あるべき姿でいること”です。また人間とはどこまで行っても不完全ですのでその姿に“変わること”が強いということと理解しています。どういうことかと言いますと今皆さんはお話を聞いています。どのような姿勢で聞くべきでしょうか？背筋を伸ばして相手に失礼の無いようにするべきかと思えます。選手として強いとはどういうことでしょうか？それは勝つことです。非常に単純です。では人間として強いということはどういうことでしょうか？

人間はどうあるべきなのか？私は単純です。皆さんに笑顔でいて欲しいと思っています。よって私の使命は“テコンドーで人を笑顔にすること”です。そしてそのために“変わり続けること”です。これが私の使命であり修行です。そしてそれはいつか皆さんも同じになるべきだと考えています。自分の笑顔ではなく相手の笑顔を優先してほしいと思います。一見損に見える生き方ですが相手とは自分を映し出す鏡のようなものです。相手の笑顔は時間をかけて必ず自分の笑顔になり、他者との調和の取れた生き方になっていきます。

ではどうすれば変われるのか？必要なことが 2 つあります。こういったものを価値観と言います。

1つ目は『熱意』です。私には好きな質問があります。皆さんテコンドーは好きですか？私は大好きです。テコンドーが好きな方は必ず変われます。自分で練習しますので勝手に選手として強くなっていきます。どんなことでも“好き”には勝てません。私たち指導者がまずやらなければならないことはテコンドーって面白いんだということを伝えることです。しかしながら私が一番伝えたいことは“生きる”とは面白いことだということです。それが一番の教育だと思っています。そのために人として変わる必要があります。熱意だけでは足りないのです。

人として変わるために必要なもう一つのものとは何なのか？それは『心』です。

皆さんに知っておいていただきたいことがあります。それは今の心の在り方が10年後の自分を作るということです。では今良い心を持てば10年後にお金持ちになれるのか？などという話ではありません。10年後にこの世界がどのように見えているのか？それを決めるということです。人間良い時も悪い時もあります。上手くいくこともあれば失敗することもあるのですが、それらを含めて世界がどのように見えるのか？それでも素晴らしい世界だと思えるのか、それともなんでこんな世界なんだと思うのか。それを決めるということです。

植物を見ていれば分かるかもしれません。目に見えない根の部分が育ってそのあとに目に見える木の部分が育っていきます。それと同じことで目に見えない部分である心が時間をかけてゆっくりと目に見えるものを作っていきます。自然の在り方そのものです。

私は44歳ですが今の心の在り方が54歳の自分を決めます。もっと大きな見方をするならば死ぬときの心の在り方がまた生まれ変わったときの自分を決める。そう考えるのは話が綺麗すぎて個人的にはあまり好きではないのですが、そう考えることでなぜ生まれてきたのか、そしてどう生きるべきなのかという問いに対して答えを出すヒントになればと思います。

では『心』とは何なのか？その問いに答えようと思いますがいろいろな心があります。しかし必要な心は3つだけです。『感謝・敬意・反省』この3つだけです。あとの怒りや嫉妬心などは全て不要です。こういった不要なものを無くしていく作業を“心を磨く”と言います。

人は自分の心を通して世界を見ています。まず世界があるのではなく、まず心があるのです。そして心がある方は一つの失敗や上手くいかないことに対してどうすれば感謝できるのかと考えます。自分があまり好きでない方に対してどうすれば敬意を払えるのかと考えます。しかしながら心が無い方は失敗に対して人のせいにし、自分より相手が下と見れば敬意を払わず、また自分が上でありたいという欲が更に敬意を無くしていきます。

この両者が10年後に大きな差になることは明らかです。

ではどうすれば心を作ることができるのか？それは簡単です。武道には“行いには心が伴う”という考え方があります。日々道着を整えて着ることも礼を美しく行うことも全てはその行いから心を整え美しくするためです。

簡単に申し上げれば感謝は“ありがとう”、敬意は“挨拶”や返事を“ハイ”と言うこと、反省は“ごめんなさい”と言うことです。このような簡単なことが実は積み重なって人生に大きな影響を与えます。

ここで私の経験ですが『感謝・敬意・反省』のどれか一つだけ持っているという人を見たことがありません。一つなければ全て無いのです。この3つはそれぞれが関連し合っ

を成していると感じます。逆に言えばこの3つのどれか1つだけでも作ることが出来ればその方は心を作ることが出来るということです。

感謝と反省は機会がなければ行うことが出来ません。しかし敬意は人と人が関わる以上必ず行うことができます。よって『熱意』ともう一つ必要な価値観とは『敬意』となります。私たちは同じものを好きになった者同士です。その中で皆に敬意を払うことは難しいことでは無いと思います。敬意の反対が“好き嫌い”です。つまり友達関係に代表されるお付き合いです。私たちは組織の中で好き嫌いではなくまず仲間として接するべきです。そして敬意とは分け隔てなく払われるべきものです。目上の方にのみ払うものではなく、目下の方や子供に対しても払ってこそ敬意と言えます。

難しい話を続けてきましたが最後は簡単です。実際に行うべき3つの行いを提案いたします。こういったものを行動指針と言います。

1. 明るい挨拶
2. 頭を下げること
3. 順序を守ること

1は中々出来ませんね。相手が返してくれるか分かりません。しかし自分のためにも頑張ってみていきましょう。2はテコンドーには礼がありますので皆さん大分できていると思います。3については例えば皆さんが礼に行くときに上の帯の方から行っていますか？こういったことを実践することです。そもそも礼儀の本質とは優先順位を間違えないことです。“自分”を最優先にした時に礼儀は損なわれます。

皆さんテコンドーが好きであることと同時に心を作ることも欠かさず努力して欲しいと思います。そして武道団体である以上、心が優先されるべきであると考えています。武道の中にテコンドーがあります。『熱意』と『敬意』は横並びではなく、当団体においては『敬意』に重きが置かれることを切に願っております。

ここからは私からのお願いとなります。

今から約20年前に日本のITFテコンドーは大分裂をしています。それから争いは絶えません。自分も分裂後に組織が少ない人数であったこともあり、組織運営の全てのことに関わってきました。この20年で心が休まった時などほんの一時です。また少ない人数の中で試合もままなりません。海外遠征をするにしても現在のヘッドコーチの仕事しながら選手として参加するような状況でした。とても集中できる状況ではありませんでした。そういった中で当時から変わらず私の中心で燃え続けているものはこのような思いを子供

たちにさせてはならないというものです。次の世代には完成された素晴らしい組織を残さなければなりません。

人も組織もものの本質は同じです。その組織にある心が10年後の組織の在り方を決めます。お願いというのは皆さんでこの敬意ある行動に対して努力して欲しいというものです。それは保護者様にも同じように理解をしていただきたいと思います。この組織に関わる全ての方をお願いしたいです。

そうして組織の土壌を皆さんの努力で豊かなものにしていただければ、その上に出来上がるものについては全て私（と仲間達）がやります。

10年後に素晴らしい組織を作ることをお約束いたします。好きなテコンドーをずっと好きでいられる、そんな組織を作ることをお約束して私からの開会の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

2024年11月16日 第16回全国新人戦にて